



## 安心してお薬を服用していただくために

お薬は、睡眠の確保やお困りの症状を緩和させるために、医師の指示通りの用法用量で服用を継続することが必要です。逆に自己調節して飲む量を増やしたり減らしたりすると症状が悪化することがあります。

患者さんに、副作用やそれを軽減する対処方法等を知っていただくことで医師と相談し、安全に治療を受けていただくことができます。

ここでは主に、向精神薬<sup>注)</sup>の副作用について説明します。

なお、副作用は一部の人に現れるものであり、多くの人で発現するわけではありません。万が一、副作用が現れた場合でも、多くの副作用は薬の量を調節することで改善が見込まれますので、医師にご相談ください。

注)向精神薬・・・向精神薬とは中枢神経に作用し精神機能（心の働き）に影響を及ぼす薬物の総称で、抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬などがあります。

### ★ 副作用について

#### ・ 錐体外路症状

手がふるえる、目が上を向く、足がむずむずする、足が落ち着きなく揺れる、無意識に口が動く、手足が勝手に動くなどの症状がみられます。

#### ・ 過鎮静(ボーっとする、眠い)

新しい薬の飲みはじめに眠気等を感じるがありますが、薬を服用し続けることで、身体が慣れてくることもあります。薬と眠気に関係がないこともありますので、眠気等で困っている場合は、ご相談ください。

#### ・ 口渇(口が渇く)

唾液が出にくくなって、口や喉が渇いてしまう場合があります。過剰に水分を摂取していると注意が必要なので、1日3L以上の飲水する方は早期に医師へご相談ください。キャンディをなめる、ガムをかむ、うがいをする、氷をなめる等の工夫でも症状を軽減できます。

#### ・ 便秘

便秘は、抗精神病薬や抗パーキンソン病薬などの使用によりよくみられる副作用です。便秘症状が長期に渡り続いている場合は、相談しましょう。

## ★ 重篤な副作用について

### ・ 遅発性ジスキネジア

薬の服用開始から数ヶ月～数年で発現し、原因薬剤の減量・中止後も症状が改善しないことがあります。発症率は、昔からある抗精神病薬(定型抗精神病薬)では 30～40%出現するのに対し、新規抗精神病薬(非定型抗精神病薬)では 5%前後という報告があります<sup>1)</sup>。自分の意志とは無関係に身体のだこかが勝手に動いてしまうという症状が現れます。このような自覚症状がある場合は、医師へ相談しましょう。

1)重篤副作用疾患別対応マニュアル ジスキネジア 平成 21 年 5 月 厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/11/dl/tp1122-1c21.pdf>

### ・ 悪性症候群

急に高熱(38℃以上)が出て下がらない、汗を多くかく、脈が速くなる、筋肉のこわばりが強くて動けない、意識がもうろうとするといった症状が現れることがあります。発症率は、抗精神病薬を使っている人の 1%未満とまれですが、放置すると命にかかわる重い副作用です。現在では有効な治療方法が確立していますので、速やかに受診して医師の指示に従いましょう。

### ・ 薬疹

薬疹とは、薬を内服したり注射することにより生じる発疹のことで、向精神薬に限らずどのような医薬品においても起こりうる可能性があります。通常、薬に反応する細胞や抗体が作られるのには内服を始めて 1～2 週間程かかるので、そこで初めて発症すると考えられています。発疹が広範囲に広がったり、口や鼻の粘膜や眼などに症状が現れた場合は、すぐに皮膚科を受診するようにしてください。

## ★ 離脱症状について

睡眠薬や抗不安薬、抗うつ薬などを服用している場合、急に薬の量を減量したり、服用を止めると不眠症状の再燃・悪化、不安症状や自律神経症状が現れることがあります。薬は自己調節せず、説明された時間・回数・使用量等を守りましょう！！

## ★ 糖尿病について

抗精神病薬の中には、**糖尿病**の患者さんには使用できないものがあります。ご自身やご家族が糖尿病を患っている方は、必ず医師に伝えてください。短期間に急激に体重が増えた、のどが渇く、砂糖を多く含む清涼飲料水をたくさん飲むようになった、おしっこの量・回数が増えた等の症状は糖尿病が疑われるため速やかに受診して検査を受けましょう！！



**服用中のお薬に関してご不明な点がございましたら医師・薬剤師まで気軽にご相談ください！！**

